



子やぎの「ロイ君」物語

去る七月二十二日の朝、四匹の子やぎがメリー、アイ、伝次郎家族に生まれました。しかし一匹は死産、三匹の子やぎはお母さんやぎのお乳を求め必死に鳴き、動いています。

翌日、一匹の子やぎが他の母やぎのお乳を求めますが、機嫌を損ねたのか、その親やぎの頭で振り飛ばされます。子やぎは地面に叩き付けられ、ぐったり、目もうつろ、瀕死の状態です。それを見た女の子達は子やぎを段ボールに入れ、ハウスに連れ帰り、職員に応援を求めます。中々来ない職員に苛立ちながら、涙している子もいます。

しばらくして駆け付けた職員と獣医の所へ行こうと車を飛ばしますが、最初の獣医さんを見るなり、首の骨が折れている様だ、もう時が来るのを待つしかないと言います。車に戻った子ども達は泣きながらあきらめきれない様子。職員は別の獣医さんの所に行ってみようという提案、町の獣医を訪問しますが休診で不在。何とかしたいと三ヶ所目に向います。

そこは、いつもやぎの相談をしている方の所、そこに着いた瞬間、飼われているやぎたちが一斉に鳴き始めました。



～子やぎのロイくん～

するとどうでしょう、首が折れてだめと言われた子やぎが声に誘われたのか、首をもたげ鳴こうとしています。子ども達もびっくり「頑張れ、頑張れ」と励まします。しばらくすると立ち上がるようになります。やぎ飼いのおじさんも、これはと思い、人工のお乳を口に入れてくれました。子やぎは見違えたように泣き出し、立ち上がろうと何度もします。大丈夫かもしれない。子ども達もヤッターと大喜び、これから人工乳で頑張る事を職員に懇願し、連れ帰ることにしました。それからは、人間の親子のように風呂に入れたり、昼夜、頻繁にミルクを交代で飲ませ、お尻を拭いたり、睡眠不足になりながらもお部屋で育てています。子やぎも女の子を母親だと思っているようです。

現在二か月ほど過ぎ、栄養が良いのか他の子やぎより真っ白で大きく成長しました。夜はお部屋で一緒に寝ていますが、昼間は庭に柵をして、草を食べながら暮らせるように成長した「ロイ君」でした。

めでたし、めでたし。

愛隣の風

愛隣園だより
第11号
発行責任者
迎田 浩二

愛隣園 基本理念



律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」

イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

これが最も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。

『隣人を自分のように愛しなさい。』
律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」
(マタイ伝二十二章三十五〜四十節)

女子棟(レインボーハウス)が再開しました

園長 迎田浩二



RH 外観



RH 個室

ケアワーカーの皆さんの産休等が重なり、約一年半閉じておりましたレインボーハウスが、二名の復帰を受けて、無事七月一日より再開出来ました。定員は六名の女子ハウスです。運営中の女子ハウスから二名ずつ移動してもらい、児童四名と職員四名体制でスタートしました。室内もコロナ対策予算を活用して個室化した新しい部屋に、子ども達も喜んで移動してくれました。その後、一名加わり現在は五名の子も達が生活しています。別の記事として掲載されていると思いますが、瀕死の状態から子ども達の努力で生還した子やぎの「ロイくん」も室内で一緒に暮らしています。

令和七年度から、一ハウス児童数六名が制度的に指定されます。そのためにも今回の再開は、選択肢の広がり等、大きな役目を果たしていると考えます。旧食堂棟のハウスですが、内部と玄関のリホームを行っております。近くに立ち寄りられた際には、外観ではありませんがどうぞご覧ください。

今後ともレインボーハウス共々よろしく願っています。

職業指導員(自立支援担当)より

児童養護施設における職業指導員の役割は、厚生労働省から通知により「児童の職業選択のための相談・助言・情報の提供等、実習・講習等による職業指導、入所児童の就職支援、退所児童のアフターケアとしての就労及び自立に関する相談援助」と定められています。職業指導員は、熊本県では平成二十九年に配置が始まりました。配置当初は、県内児童養護施設十二施設のうち、当園を含めて三施設からのスタートでした。これまで施設が積み重ねてきたインケア・リービングケア・アフターケアの取り組みをさらに充実させるために試行錯誤の日々を重ね、あつという間に四年が経ちました。県内の職業指導員を配置している施設もこの四年間で九施設に増え、子ども達を支援してくださる支援団体の方々との繋がりが広がり始めました。さらに、熊本県児童養護施設・自立支援勉強会の発足により各施設、支援団体の方々、児童相談所の方々が、自立支援について話し合う機会が設けられ、当職種配置当初の事を思うと、子ども達の自立支援に向けたこのような熊本県内の流れがとて心強く、有難く感じている所です。私自身も、子ども達一人ひとりがしっかりとした将来展望の中で施設を巣立っていきけるよう、自立支援の在り方について、日々研鑽を積んでいきたいと思えます。



井上 麻衣

～温かいご支援に感謝申し上げます～

- 髪弄屋 saboten様 熊本ゼミナール様
- 松山健治様 ありさんプロ株式会社様
- マルハン山鹿店様 ミ・ルアール様 西村博之様
- 大宮神社様 株式会社フレーベル様 小川愛一郎様
- 山鹿市社会福祉協議会様 九州納豆組合様
- 生命保険協会熊本県協会様 九州アイスクリーム協会様
- 株式会社スマイルクリエイト様 松尾果樹園様
- 株式会社日本パブリックリレーションズ研究所様



松尾果樹園様(ぶどう寄贈)



株式会社スマイルクリエイト様(かぼちゃ寄贈)



九州ろうきん様(図書寄贈)



髪弄屋 saboten様(散髪ボランティア)

愛隣園夜市

8月24日、愛隣園夜市を開催しました。このイベントは、コロナ禍で山鹿灯ろう祭も中止ということもあり、外出できない子ども達の、夏の思い出になるようにと企画されました。当日は、くじ引きやヨーヨー釣り、輪投げにダーツなどの出店があったり、かき氷やジュースのお店も出されたりと、たくさんのブースが用意されました。中にはご寄付でいただいた山鹿灯籠のお社をライトアップし、コットンボールやイルミネーションで飾った“映えスポット”も登場し、子どもたちがかき氷などを持って思い思いに写真を撮っている姿も見られました。さらに、出店を回った後はホーム毎にバーベキューをして楽しみました。そして最後は、大抽選会と打ち上げ花火も行われました。大抽選会では、当選番号が発表される度に一喜一憂したり、打ち上げ花火ではみんなで歓声をあげながら見たりと、催し物いっぱいの1日でした。子どもたちにとっても素敵な夏の思い出の1ページになっていたらいいなと思います。(※各ハウスごとの行動、予防徹底)



チョコロス



チーズケーキ



クリームサンドクッキー



クリームパン



ドーナツ



ミニハンバーガー

キッチンハウスより おやつのおすそわけ

愛隣園のキッチンハウス(調理部門)では週に4日間おやつを提供しています。既製品を使用する場合がありますが子ども達からのリクエストをもとに、手作りのおやつも提供しています。今流行のSNS映えしそうな愛隣園のおやつは職員、子ども達からとても好評です。

思い出ギャラリー



GW企画 駄菓子屋



GW企画 箱の中身はなんだろう?



GW企画 ハウスBBQ



園庭砂場プール



キッズ農園収穫



子ヤギ誕生



消防訓練



そうめん流し



竜門ダムピクニック

心理療法担当職員より

心理担当職員は、平成11年に初めて専門職として配置された職種で、普段は主に心理面接などを通して子どもたちと関わっています。

私はまだ心理士としての経験は少ないですが、子どもたち一人ひとりが必ず持っている、得意な事、できる事、長所を見つけ、さらに伸ばしていくことをお手伝いすることが、私の今の目標です。特に現在はコロナ対策として、今までできていた行動が制限されている場面も多いため、子どもたちにとって苦しい状況が続いています。その中で、少しでもホッとできる場所を提供できるよう、これからも日々子どもたちと向き合い、努力していきたいと思っています。

専門職コラム



寺師 千恵